



BAYERISCHES STAATSORCHESTER SEIT 1523

Vladimir Jurowski, General Music Director

Japan Tour 2025

バイエルン国立管弦楽団

音楽総監督: ウラディーミル・ユロフスキ

2025年 日本公演

バイエルン国立管弦楽団

バイエルン国立管弦楽団は、2023年に創立500周年を迎え、世界で最も歴史と伝統のある楽団のひとつである。バイエルン国立歌劇場を拠点に、団員144人とともにオーケストラピットとコンサートステージの双方にて演奏活動を行っている。2024年には、「オーバン・ヴェルト」誌による批評家アンケートにおいて、10回連続、12回目の「オーケストラ・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた。また、ロンドンで開催されたグラモフォン賞では、「オペラオーケストラ」および「シンフォニーオーケストラ」として、バイエルン・シュターツオーパー・レコーディングス・レーベルで録音された作品（オペラ「死の都」、雪の女王、マラー：交響曲第7番）が評価され、グラモフォン賞史上前例のない快挙を成し遂げた。

1811年、かつての宮廷楽団のメンバーたちが音楽アカデミーを設立し、ミュンヘン初の公開コンサートシリーズであるアカデミー・コンサートを開始した。以来、今日に至るまで、音楽アカデミーの活動

はミュンヘンとバイエルン州の音楽文化を形成し続けている。ミュンヘンでの活動は、数多くの客演公演やコンサートツアーによってさらに充実したものになっており、オーケストラは定期的に世界の最も重要な音楽の中心地を訪れている。

同団は、モーツァルトの「イドメネオ」、ワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、「ラインの黄金」、「ワルキューレ」などを初演。また、ヘルマン・レーヴィ、リヒャルト・シュトラウス、フェリックス・モットル、ブルーノ・ワルター、ハンス・クナッパーツブッシュから、ゲオルク・ショルティ、ヨーゼフ・カイルベルト、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、ズービン・メータ、ケント・ナガノ、キリル・ペトレンコという当代を代表する音楽家が首席指揮者としてオーケストラを率いてきた。さらに、カルロス・クライバーとも深い親交があった。2021/22シーズンより、ウラディーミル・ユロフスキが音楽総監督に就任した。

ウラディーミル・ユロフスキ
(音楽総監督・指揮)

©Wilfried Hoelz

モスクワ生まれ、モスクワ音楽院で学んだのち、ドレスデン、ベルリンにて指揮と声楽指導を学ぶ。

1995年、ウェックスフォード・オペラ・フェスティバルでリムスキー＝コルサコフの「五月の夜」を指揮し、国際的にデビュー。同年、ロンドンのコヴェント・ガーデン王立歌劇場での「ナブッコ」で初舞台を迎えた。以来、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ国立オペラ座、モスクワのボリショイ劇場、ドレスデン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭などに登場している。1997年から2001年までベルリン・コーミッシェ・オーパーのカペルマイスターを務め、その後2013年までグライントボーン音楽祭の音楽監督を務めた。2007年からロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務め、2021年に名誉指揮者に就任。2017年からはベルリン放送交響楽団(RSB)の首席指揮者兼芸術監督も務めている。また、エイジ・オブ・インライトメント管弦楽団のプリンシパル・アーティスト、ブカレストのジョルジェ・エネスク国際音楽祭およびスヴェトラノフ記念ロシア国立交響楽団の芸術監督も務めている。

さらに、ヨーロッパ室内管弦楽団やアンサンブル・ユナイテッドベルリンとも定期的に共演をしてい

る。これまでに、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、アムステルダム・ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団、ボストン交響楽団、シカゴ交響楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、シュターツカペレ・ドレスデン、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団などのオーケストラと共演してきた。

バイエルン国立歌劇場では、プロコフィエフの交響曲第3番などを取り上げた2015/16シーズンのアカデミー・コンサートでデビューし、同作曲家のオペラ「炎の天使」の新演出を指揮した。さらに、2020/21シーズンに「ばらの騎士」の新演出を指揮。2021年秋からはバイエルン国立歌劇場の音楽総監督を務め、一連のアカデミー・コンサートを指揮したほか、オペラ「鼻」、「ラウドゥンの悪魔」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「戦争と平和」、「ハムレット」、「こうもり」の新演出を指揮している。2024年、イギリス国王チャールズ3世により名誉大英勲章騎士団勲章が授与された。



©Nikolaj Lund

Bayerisches Staatsorchester

Staatsintendant Serge Dorny

General Music Director Vladimir Jurowski

1st Violins

Markus Wolf
Arben Spahiu
So-Young Kim
Corinna Desch
Felix Key Weber
Dania Lemp
Celeste Williams
Dorothea Sauer*
Mana Ohashi*
Daniela Preimesberger*
Viona Magdalena Schwaiger*
Teresa Wokoblinger*
Clemens Flieder*
Karol Franciszek Liman*
Peter Son Götz**

2nd Violins

Michael Arit
Matjaž Bogataj
Sylvie Heymann-Seidel
Karin Fechter
Traudi Pauer
Markus Kern
Immanuel Drifner
Isolde Lehmann
Sylvia Bismann
Heimild Wolter
Janis Olsson
Anna-Maija Hirvonen
Gyujeon Han
Felix Härter
Bomi Song*
Kaoru Yamamoto-Kern*

Violas

Adrian Mustea
Stephan Finckentey
Clemens Gordon
Christiane Arnold
Tilo Widenmeyer
Johannes Zahiten
Monika Hettlinger
Wiehke Heidemeier
David Ott
Johanna Maurer
James Dong
Werner Ulrich Schneider*
Hanna Elisabeth Schablas**

Cellos

Yves Savary
Emanuel Graf
Benedikt Don Strohmeyer
Oliver Göske
Udo Hendrichs
Rupert Buchner
Dietrich von Kaltschorn
Anja Fabricius
Clemens Müller
Barna Károly
Andreas Schmalhofer*
Johannes Völja*

Double Basses

Florian Grölin
Blai Gumi Roca
Alexander Rilling
Alexandra Hengstbeck
Thomas Jauch
Reinhard Schmid
Thomas Herbst
Alexander Tamer Önce
Klaus Falk*

Harp

Gaël Gandino
Johanna Dorothea Görißen**

Flutes

Ulf-Dieter Schaeff*
Edoardo Silvi
Lisa Batzer*
Ginestra Spadari**

Oboes

Frédéric Tardy
Yukino Thompson
Simone Previn
Marlene Gomes

Clarinets

Andreas Schablas
Agner Müller
Jürgen Key
Marina Beck-Stegemann
Martin Fuchs

Bassoons

Moritz Winker
Susanne von Hayn
Gernot Friedrich
Sören Egon Geiger**

French Horns

Martin Schöpfer*
Franz Drexinger
Eva Lilla Fröschl
Maximilian Hochwimmer
Christian Lofner
Casey Rippon

Trumpets

Andreas Ott
Johannes Moritz
Nico Saritz
Frank Bloodhorn

Trombones

Sven Strunkelt
Thomas Klotz
Matthias Kamleiter

Tuba

Stefan Ambrosius
Steffen Schmid

Timpani

Pieter Roijzen

Percussions

Tido Proben
Dieter Pöll
Thomas Müllr
Claudio Estay
Carlos Vera Larrucea
Tomàs Toral Pons

Celesta

Wolf-Michael Storz

* Guest

** Hermann-Levi-Academy

- BMW is the Global partner of the Bayerische Staatsoper

- Tour Presenter: CCM Classic Concerts Management
www.ccm-international.de



Global Partner der
Bayerischen Staatsoper



ブルース・リウ
(ピアノ)

©Sasja Mueller

2021年ワルシャワで開催された第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで優勝したブルース・リウは、「息をのむような美しさ」(BBCミュージック・マガジン)と賞賛され、新世代で最もエキサイティングな才能を持つピアニストの一人との評価を確立した。

2024年ラインガウ音楽祭のフォーカス・アーティストとして、リサイタル、室内楽、及びフランクフルト放送響、ドイツ・カンマーフィル、チューリッヒ・トーンハレ管との共演と全5公演に出演。2024/25シーズンは、グスターボ・ヒメノ指揮ルクセンブルク・フィル、アントニオ・パッパーノ指揮ロンドン響、アラン・アルティノグル指揮フランクフルト放送響、マリー・ジャコ指揮ウィーン響、クリスティアン・マチュレル指揮フランス国立管、ラハフ・シャニ指揮ロッテルダム・フィル、アカデミー室内管、アムステルダム・シンフォニエッタ、ボストン響、デンマーク国立響、ケルン放送響、シンシナティ響、ヒューストン響、ミネソタ管、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、ロイヤル・フィルと共演。

これまでに、ロサンゼルス・フィル、サンフランシスコ響、フィラデルフィア管、モントリオール響、フィルハーモニア管、NHK響などの主要オーケストラと、ライアン・バンクロフト、チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィ、ファビオ・ルイージ、ヨアナ・マルヴィッツ、サントゥ＝マティアス・ロウヴァリ、ヤニック・ネゼ＝セガン、ジャンナンドレア・ノセダ、ラファエル・バヤレ、ワシ

リー・ベトレンコ、ダリア・スタセフスカなど著名な指揮者のもとで共演した。

リサイタルでは、2024/25シーズンにカーネギーホール、シャンゼリゼ劇場、アムステルダム・コンセルトヘボウやアジアの主要ホールで再演のほか、ウィーン楽友協会、ミュンヘン・プリンツレーゲンテン劇場にデビュー。このほか、ルール・ピアノ音楽祭、エクスサン・プロヴァンス音楽祭、アスペン音楽祭、タングルウッド音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ラ・ロック・ダントロン国際ピアノ・フェスティバル、エディンバラ国際音楽祭、グシュタード・メニューイン音楽祭などに出演している。

ドイツ・グラモフォンの専属レコーディング・アーティスト。デビュー・アルバム「Waves」でオーパス・クラシックの「Young Talent Of the Year」賞(2024年)を受賞。ショパン国際ピアノ・コンクールの入賞演奏を収録したファースト・アルバムは、グラモフォンの「2021年ベスト・クラシック・アルバム」をはじめ、国際的な評価を得た。

リチャード・レイモンドとダン・タイ・ソンに師事。中国人の両親のもとにパリで生まれ、モントリオールで育った。驚異的な芸術性は、ヨーロッパの洗練、北米のダイナミズム、そして中国文化の長い伝統といった多文化の遺産によって形作られてきた。

Bruce Liu, Piano

曲目解説

寺西基之(音楽評論家)
Moroyuki Teranishi



©Geoffroy Schied

実に500年もの歴史を誇るバイエルン国立管弦楽団。ドイツ老舗のこの名門を2021/22シーズンより率いているのがウラディーミル・ユロフスキで、持ち前の優れた音楽的センスと知性でもって、楽団特有の伝統を生かしながらそこにフレッシュな息吹を吹き込んでいる。今回はこのコンビでの初の来日公演、ユロフスキがもたらすバイエルン国立管の新しい時代の響きをじっくりと味わいたい。

9月26日

モーツァルト:交響曲第32番 ト長調 K.318

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)が1779年に書いたこの曲は当時のイタリア序曲の様式による小規模な交響曲で、全体は切れ目なく演奏される。ソナタ形式のアレグロ・スピリトソ(第1楽章に当たる)で始まり、再現部に入ったところで緩やかなアンダンテ(第2楽章に相当)に移行、その後第1部の残りの部分を続けるような形をとっている。ひとつのソナタ形式の途中に間奏的な緩徐部分が挟まれた単一楽章構成の作品で、もともとオペラの序曲として書かれたと推測されている。幅広いダイナミクス、豊かな管弦楽語法などに、これが書かれる前に訪れたマンハイムとパリの作曲家たちの音楽手法の影響が現れている。

モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488

モーツァルトは1781年に故郷ザルツブルクを離れてウィーンに定住した。ザルツブルク大司教との軋轢から宮仕え音楽家としての生活に嫌気がさし、ウィーンでフリー音楽家としての新しい人生に乗り出したのだった。彼はまずピアニストとしての活動を軸に新天地での地位を固めていく。特に自身が主催する予約演奏会での自作自演は大きな人気を呼び、彼はそうした演奏会のために数々のピアノ協奏曲を作曲した。

このイ長調の作品も1786年春の演奏会のために書かれたもので、同年3月2日に完成されている。引き続き書かれる第24番ハ短調の暗いパトスの世界とは対照的に、親密で優美な性格を持った作品だが、その中にも明と暗の微妙な表情の綾が織り成されている点がモーツァルトらしい。オーボエを省いてクラリネットを用いることで円やかな響きを作り出している点にもこの作品の特質が窺える。

第1楽章(アレグロ)は協奏ソナタ形式による流麗優美な楽章。展開部では新しい主題も現れ、その主題は再現部の終りにも主調で回帰する。第2楽章(アダージョ)はシチリアーノ風の主題による哀愁に満ちた緩徐楽章。第3楽章(アレグロ・アッサイ)は華やかに動き回るピアノが管弦楽と掛け合う軽快なロンドである。

R. シュトラウス:交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯」 Op.28

ドイツ・ロマン派後期の作曲家リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)の前半生の代表作は主に交響詩で占められ、特に1895年に完成された「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯」は最も親しまれている作品である。彼の交響詩中でも「ドン・キホーテ」とともにきわめて物語性の強いもので、彼らしい音画的書法が巧みに生かされた名作である。物語は14世紀ドイツの伝説上の悪戯者ティル・オイレンシュピーゲルを扱ったもの。シュトラウスはもともとこれをオペラとして構想したようだが、結局交響詩の形で纏め上げた。曲は2つのティル主題が循環的に何回も現れる中、エピソード風に様々な描写部分が挿入されていく形をとる。

作曲者自身が述べている内容の概略は — 昔々、悪戯者がいた[プロローグ]。彼の名はティル[2つのティル主題(それぞれホルンとクラリネット)の提示]。心浮き立って悪戯に出かけた彼は、馬で市場を混乱させ、僧侶に変装して説教し、騎士になって求愛するも断られて世間への復讐を誓い、学者に論戦をふっかけて逃げ、小唄を歌う。しかし最後には捉えられて裁判にかけられ、処刑される。こうして昔々の物語はおしまい、しかしティルの自由な精神は永遠のものだ[エピローグ]。

R. シュトラウス:組曲「ばらの騎士」

前述のようにR.シュトラウスは前半生には交響詩の創作に力を注いだが、後半生になると創作の中心をオペラに置くようになる。特に劇作家ホフマンスタールの台本による数々の作品はドイツ・ロマン派オペラの最後の頂点を築くものといえよう。それらの中でもとりわけ親しまれている「ばらの騎士」は1909-10年に作曲され、1911年にドレスデンの宮廷歌劇場で初演された。同じホフマンスタールの台本によった前作「エレクトラ」が古代ギリシャの題材を斬新な暗く鋭い和声に結び付けていたのとは対照的に、「ばらの騎士」は、18世紀のウィーン貴族の生活を背景とした恋物語を明快な響きで生き生きと表現しており、甘い官能性や優美な香りに満ちたオペラとなっている。ワルツが多用されている点もこの作品の際立った特色である。本日演奏されるのは演奏会のために編まれた管弦楽用の組曲版。1945年に出版されたこの組曲は名指揮者ロジンスキーが編んだといわれているが、スコアには編纂者の名前は記載されていない。第1幕冒頭の前奏に始まり、全曲からの様々な聴きどころを取り出して繋げたメドレー風の組曲で、全体は休みなく演奏される。

9月27日

ワーグナー:歌劇「タンホイザー」序曲

従来のオペラのあり方に飽き足らず、総合芸術としての舞台作品(楽劇)を追求したドイツの大作作曲家リヒャルト・ワーグナー(1813-83)だが、「タンホイザー」は彼がまだ楽劇のスタイルを完全に確立していなかった1842-45年に書かれたオペラで、次作の「ローエングリン」とともに、従来のオペラから楽劇へ向けての過渡期の様式を示している。台本は中世伝説に基づいてワーグナー自身が書いており、吟遊詩人の騎士タンホイザーがエリーザベトという愛人がありながら女神ヴェーヌスの虜となり、官能を讃える歌を歌合戦で歌って追放されるが、最後はエリーザベトの自己犠牲的な愛のおかげで罪を許される、というもの。

長大な序曲は、オペラ中の巡礼の合唱の主題を用いた敬虔かつ重厚な主部と、ヴェーヌスの官能と愛欲の世界を表す中間部分とからなるもので、本日の演奏では最後に主部が壮麗に回帰するオリジナルの版で演奏される(のちにワーグナーはパリ上演の際、第1幕の幕開けのヴェーヌスベルクの場合にバレエ音楽を追加し、序曲もその中間部分から第1幕のバレエにつながる形の別バージョンを作っている)。

モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488

※9月26日の項を参照

ブルックナー:交響曲第4番 変ホ長調 WAB104「ロマンティック」

第2稿(1878/80) 新ブルックナー全集(コレストヴェット校訂版)

交響曲作家として知られるオーストリアの作曲家アントン・ブルックナー(1824-96)は典型的な大器晩成型だった。初めての交響曲(番号なしのヘ短調)を書いたのはすでに30歳代終りに近い1863年なので、交響曲作家としていかに遅咲きだったかが窺えよう。そして初期の交響曲を通して、壮大かつ重厚な独特の様式を確立していく。

本日の交響曲第4番は初期に確立したそうした様式に基づきつつも、さらに豊かなスケール感を加味した交響曲で、作曲家自身が「ロマンティック」という題を付けたことにも、新たな表現の世界を彼がこの交響曲に求めていたことが見てとれる。もっとも1874年に完成された初稿(第1稿)は様々な構想を詰め込んだ粗削りなもので、やや表現意欲が先走ったところがあった。ブルックナーは1878年から80年にかけて作品を大々的な改訂を施し、特に終楽章には大きく手を加えるとともに、第3楽章は新しいものに改め、より交響曲に相応しい統一感を持った第2稿を作り上げた。今日最も多く演奏されるのは第2稿で、本日もこの稿が取り上げられるが、使用楽譜はこれまで一般的だったハースやノーヴァクの校訂版でなく、最近コレストヴェットが校訂し直した新全集版が用いられるとのことである。

第1楽章(動きをもって、速すぎずに)は、弦のトレモロによるいわゆる“ブルックナー開始”を背景にしたホルンの奥深い第1主題に始まる。自然の神秘性と広大さを感じさせる楽章である。第2楽章(アンダンテ・クワジ・アレグレット)は歩むような運びのうちに孤独感と寂寥感を漂わせた幻想的な緩徐楽章で、次第に大きなクライマックスを築いていく。第3楽章(スケルツォ、動きをもって)は生き生きとした狩のスケルツォ。のどかな農民舞曲風のトリオが対照される。第4楽章(動きをもって、しかし速すぎずに)は、ソナタ形式による起伏に富んだ展開のうちに壮大な盛り上がり築き上げていく大規模なフィナーレで、最後には第1楽章第1主題の冒頭動機が回帰する。





ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちを寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がある」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。

どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、人々に夢・希望・生きる力を

与えてくれます。これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに

掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。



◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 M.I. 岩村 和央 上村 憲裕 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子
K.K. 北村 眞 R.K. 相良 延利 新貝 康司 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎
東條 Lilly K.T. トゥールラブ 真智子 苫米地 英人 K.N. E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子
T.H. 樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子 M.H. 松尾 芳樹 真野 美千代
三木谷 晴子 安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 (匿名希望13名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社青林堂
三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<館野泉バースデープロジェクト「みんなで祝おう!卒寿記念コンサート」>

稲垣 美晴 えこ 上原 洋子 久間 和子 佐々木 暁子 スオミ・ピアノ・スクール研究会 鈴木 早苗
館野泉ファンクラブ 中村 康江 服部 惠恵子 林 幸仁 平山 美由紀 湯本 早百合 (匿名希望1名)

<ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. 佐久間 隆弥 Rimiko N.S. 竹内 麻里子 中尾 圭吾 T.H.
樋口 美枝子 K.F. 細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 ロロコミ (匿名希望11名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 T.O. K.K. 佐久間 隆弥 Rimiko 竹内 麻里子 M.T. 平山 美由紀
細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 ロロコミ (匿名希望9名)

<千住真理子に「花を贈ろう!」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 眞 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 田中 治郎
H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子 (匿名希望7名)

2025年9月9日現在 五十音順、敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)